

日本地域福祉学会第 39 回大会（兵庫大会）開催要項

大会テーマ

地域福祉における「住民自治」のあり方を問う

～地域福祉の政策化の時代における「住民自治」の意義と実践の可能性を探る～

大会趣旨

日本において地域福祉が理論的に議論されはじめたのは、1970 年前後の時期からです。地域福祉理論や実践の一定の成果は 2000 年の社会福祉法改正において「地域福祉の推進」が明記され、地域福祉計画が法定化されたことにもあらわれているといえます。この改正をひとつの契機として、地域福祉は政策的にも重視されるようになりました。その後、介護保険法における地域包括ケアシステムや生活困窮者自立支援法における生活困窮者支援、さらには社会福祉法における包括的な支援体制づくりなどを通じて、「地域福祉の政策化」といわれる状況がよりいっそう進展しています。

その背景には、地域住民の生活課題が複雑多様化し、「制度の狭間」という表現に象徴されるように既存の法制度の枠組みでは対応できない課題が顕在化してきていることが挙げられます。そのため地域福祉が「（制度の狭間の）支援」の文脈において捉えられ、ソーシャルワークにおけるメソ・マクロ実践とも親和性が高いこともあり、個々の住民やその世帯の支援（個別支援）から地域づくり（地域支援）へと、両者を一体的に展開するという言説が広く業界・学界において受け入れられるようになっていきます。このように社会福祉における「地域福祉の主流化」ともいえる動向は、改めて社会福祉における地域福祉理論、あるいはソーシャルワークにおける地域福祉実践の固有性や特質を問うているといえます。

そこで本大会では、地域福祉（「地域における社会福祉」）が政策的にも推進されるという今日的な動向をふまえて、2 日間のプログラムを通して、地域福祉（地域による福祉）における「住民自治」の意義と実践の可能性について、理論的な検討を通じて争点を明確にしたいと考えています。あわせて主として近畿圏での地域福祉に関する実践やまちづくりの取り組みを検証することで、地域福祉における「住民自治」の意義と可能性について議論を深めたいと思います。ふるってご参加ください。

期 日： 2025(令和 7) 年6月 28 日(土)～29 日(日)

＊6 月 27 日 エクスカーション・プログラム(兵庫県内阪神間・3 コース)

会 場： 武庫川女子大学 中央キャンパス 公江記念講堂ほか

主 催： 日本地域福祉学会、日本地域福祉学会第 39 回大会(兵庫大会)実行委員会

後 援
(予定)

兵庫県、西宮市、尼崎市、兵庫県社会福祉協議会、西宮市社会福祉協議会、尼崎市社会福祉協議会、芦屋市社会福祉協議会、宝塚市社会福祉協議会、伊丹市社会福祉協議会、川西市社会福祉協議会、三田市社会福祉協議会、猪名川町社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会、滋賀県社会福祉協議会、京都府社会福祉協議会、大阪府社会福祉協議会、奈良県社会福祉協議会、和歌山県社会福祉協議会、京都市社会福祉協議会、大阪府社会福祉協議会、堺市社会福祉協議会、関西学院大学、武庫川女子大学、関西福祉大学、兵庫県立大学、兵庫大学、神戸女子大学、神戸学院大学、神戸親和大学、神戸女学院大学、市町社協活動推進協議会、兵庫県社会福祉法人経営者協議会、兵庫県老人福祉事業協会、兵庫県身体障害者支援施設協議会、兵庫県知的障害者施設協会、兵庫県保育協会、兵庫県児童養護連絡協議会、兵庫県母子生活支援施設協議会、兵庫県乳児院連盟、兵庫県更生施設連盟、兵庫県医療福祉施設連盟、兵庫県更生保護施設連盟、兵庫県介護老人保健施設協会、兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会、兵庫県ホームヘルプ事業者協議会、兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会、兵庫県社会就労センター協議会、きょうされん兵庫支部、兵庫県身体障害者福祉協会、兵庫県肢体不自由児者協会、兵庫県視覚障害者福祉協会、兵庫県聴覚障害者協会、兵庫県手をつなぐ育成会、兵庫県精神福祉家族会連合会、認知症の人と家族の会兵庫県支部、兵庫県婦人共励会、兵庫県精神福祉家族会連合会、ひょうごセルフヘルプ支援センター、兵庫県ボランティア協会、兵庫県社会福祉士会、兵庫県介護福祉士会、兵庫県介護支援専門員協会、兵庫県精神保健福祉士協会、兵庫県医療ソーシャルワーカー協会、生活協同組合コープこうべ、神戸 YMCA、神戸新聞厚生事業団、公益財団法人 PHD 協会、神戸新聞社、サンテレビジョン、ラジオ関西

1 スケジュール

【1日目】2025（令和7）年6月28日（土）会場：武庫川女子大学公江記念講堂

9:15 10:00 10:30 12:00 13:00 16:00 16:20 17:50 18:00 19:45

受付	開 会 式	基調鼎談 (10:30 ～12:00)	昼 食 学会 ランチ サロン	大会企画 シンポジウム (13:00～16:00)	休 憩	総会 (16:20-17:50)		情報 交換会
----	-------------	---------------------------	-------------------------	---------------------------------	--------	---------------------	--	-----------

【2日目】2025（令和7）年6月29日（日）会場：武庫川女子大学中央キャンパス

9:00 9:30 10:30 11:00 12:45 13:55 15:55 16:00 16:15

受付	自由研究発表Ⅰ (口頭) 9:30～12:45		昼食 (地方部会関係者 用昼食会場あり) スペシャル・ トーク ライブ	自由研究発表Ⅱ (口頭) 13:55～15:55		閉会式
	ポスター発表掲示			ポスター発表掲示(質疑) 13:55～14:55		
	優秀実践賞 授賞式・報告 9:30～ 10:50	日韓学術 交流企画 11:00～ 12:45		大会企画シンポジウム 13:55～15:55		
	課題別シンポジウム			開催校企画シンポジウム 13:45～15:55		

2 プログラム内容

基調鼎談 6月28日（土） 10:30～12:00

テーマ：地域福祉における「住民自治」をめぐる論点整理
—地域福祉の理論と実践の分析・検討を通して—

この鼎談では、地域福祉における「住民自治」について、理論的に検討し、あわせて実践的な蓄積をふまえて、なぜ住民自治を問う必要があるのかということ議論し、基本的な論点を整理します。

私たち（＝住民）はそれぞれが生活を自律的に営む主体者ですが、ときには福祉的な支援を必要とします。利用者主体あるいは当事者主体は、そうした支援関係における支援を必要としている側の主体性を重視したものです。また、福祉活動をする場合にはその主体者でもあります。地域福祉では理論においても、実践においても「住民主体」の原則が重視されてきましたが「地域による福祉」はそうした住民の内発性にもとづく実践です。この場合、住民を福祉当事者との相関関係または共感関係にある生活当事者として捉え、議論したいと思います。

自治は、集合的な概念です。私たちは自律的な主体ですが、住民自治という場合には、住民がつながり、力を合わせて「きょうどう（共同・協同・協働）」して取り組む状態を指しています。生活者であり、当事者であり、活動者でもある住民が、専門職も含めて多様なアクターとのきょうどう関係を通じて、相互にエンパワメントし、そうしたエンパワメントが連鎖して地域のエンパワメントへとつながっていく…。住民自治をそうした力動的なものとして捉えたいとも思います。

地域福祉において、こうした「住民自治」を問い直すことには、どのような意義があり、実践的な可能性があるのでしょうか。みなさんと一緒に考えたいと思います。

登壇者：松端 克文 氏（武庫川女子大学・第39回大会実行委員長）
：清水 明彦 氏（西宮市社会福祉協議会副理事長）
：藤井 博志 氏（関西学院大学・日本地域福祉学会副会長）

会場：武庫川女子大学 公江記念講堂

大会企画 シンポジウム① 6月28(土) 13:00~16:00

テーマ： 地域福祉におけるコミュニティの主体性と「住民自治」を問う
ー地域福祉とまちづくりの接点にフォーカスしてー

介護保険法のもとでの生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターや社会福祉法において新たに事業化された重層的支援体制整備事業でも言われている「地域づくり」。これは厚生労働省が推進役になっていますが、まちづくりに関しては総務省や農林水産省など他の省庁でも行われています。でも、向き合う現実には、少子高齢化や人口減少、限界集落など、同種の課題です。しかも、「地域づくり」とは、単なる福祉的な見守り体制の構築ではなく、住民自治を促進することです。

そのため本分科会では、厚生労働省系の地域福祉における地域づくりと、他の省庁のいわゆるまちづくりとも関連した地域づくりとの接点について、大都市と過疎地も共存する兵庫のリアリティにも結びつけながら、議論してもらえたらと思っています。

コーディネーター：竹端 寛 氏（兵庫県立大学）

コメンテーター：柴田 学 氏（関西学院大学）

馬袋 真紀 氏（朝来市役所）

シンポジスト：柏木 登紀 氏（シミンズシーズ・明石コミュニティ創造協会理事）

：戸田 幸典 氏（特定非営利法人丹波ひとまち支援機構代表理事）

：田村 幸大 氏（特定非営利活動法人なごみ事務局長）

：岩城 和志 氏（淡路市社会福祉協議会事務局次長）

会場：武庫川女子大学 公江記念講堂

大会企画 課題別シンポジウム 6月29日(日) 9:30~12:00

(定員:70名) テーマ：これからの社協のあり方を問い直す～社協実践を切り口にして～

地域社会の共同性が薄まり、個人化・孤立化が進んだ今日、改めて「住民が主体となり、誰もが暮らしやすい地域をつくる」ことの価値と方法、そして地域福祉の推進主体としての社協組織・活動のあり方が問われています。たとえば次のような課題が挙げられます。

- ・社会的孤立により厳しい状況におかれている人々のエンパワメントと地域づくりをどのように結び付け、展望するのか。
- ・従前の地域組織や世帯を基盤とした地域運営・自治が難しくなる中、多様性が認められる包摂の地域づくりをどのように進めるのか。
- ・社協の「協議体」機能を基盤とした「運動体」「事業体」のマネジメントは進んできたのか。

30 数年ぶりに見直された「社会福祉協議会基本要項 2025」も踏まえ、社協実践を切り口に、これからの社協のあり方を問い直すシンポジウムとワークショップを行います。

実践報告（90分） — ワークショップ（60分） — まとめ（30分）

コーディネーター：山口 浩次 氏（龍谷大学）

シンポジスト：吉田 明博 氏（養父市社会福祉協議会事務局長）

：山本 信也 氏（宝塚市社会福祉協議会地域支援部長）

：納田かおり 氏（泉佐野市社会福祉協議会事務局長）

会場：武庫川女子大学 公江記念館 7階プロジェクトラウンジ

大会企画 シンポジウム② 6月29日(日) 13:55~15:55

テーマ : 「地域福祉と包括的支援体制」時代の地域福祉の課題と展望

二度にわたる社会福祉法の改正をうけて市町村においては、「地域共生社会の実現」に向けて包括的支援体制づくりが進められています。こうした動向は「地域福祉の政策化」とも評されていますが、地域福祉「と」包括的支援体制とのあいだには、どのような関係があるのでしょうか。

本シンポジウムでは、包括的支援体制づくり・重層的支援体制整備事業に関する各地での実践状況の報告をもとに、「地域福祉マネジメント」さらには「評価的思考」といった観点から議論を深め、これからの地域福祉の課題と展望を探ります。

コーディネーター：平野 隆之 氏（日本福祉大学）

コメンテーター：朝比奈ミカ 氏（市川市よりそい支援事業ガジュマル+、市川市生活サポートセンターそら総合センター長）

シンポジスト：朝比奈ミカ 氏（同上）

：栗本 浩一 氏（とよた多世代参加支援プロジェクト事務局長）

：秋山 太 氏（久留米市役所）

会場：武庫川女子大学 日下記念マルチメディア館 1階メディアホール

開催校企画 シンポジウム 6月29日(日) 13:55~15:55

(定員：70名) テーマ : 地域福祉の推進と多文化共生の取り組み

外国にルーツのある人が、住民として日本で生活する際には様々な課題に直面します。その課題には、言語や文化の違い、在留資格など外国人特有のものもあれば、就労、保健医療、教育など日本人と共通の課題もあります。地域での在住外国人支援は、自治体や国際交流協会（名称は地域により異なる）、NPOなどが中心となり取り組まれています。また、コロナ禍において設けられた生活福祉資金特例貸付では、外国にルーツのある人が窓口によく訪れ、そのニーズが浮き彫りになり、課題解決に向けた取り組みが徐々に生まれつつあります。

そこでこのシンポジウムでは、“さんだ多文化ふくふくネットワーク”と題して、社会福祉分野のアクターである社会福祉協議会と多文化共生分野のアクターである国際交流協会による連携実践が進んでいる兵庫県三田市の実践から学ぶ機会を設け、議論を深め、実践へとつなげていきたいと思ひます。

コーディネーター：吉富 志津代氏（武庫川女子大学社会福祉学科教授、NPO 法人多言語センター FACIL 特別顧問）

コメンテーター：山口 隆司氏（三田市社会福祉協議会事務局長）

：諏訪田克彦氏（独立行政法人高齢、障害、雇用者就労支援機構発行“働くひろば”元編集委員）

シンポジスト：坂西 卓郎氏（公益財団法人 PHD 協会事務局長）

：寿賀 素子氏（三田市国際交流協会 副会長）

：大村 和也氏（三田市社会福祉協議会総合相談支援センター課長）

会場：武庫川女子大学 公江記念館 7階プロジェクトラウンジ

優秀実践賞授賞式と、受賞団体による報告を行います。実践と研究との往還的関係を深めていくための本学会による貴重な取り組みです。

ぜひ、実践から学び、それを日々の研究や実践へとつなげていきましょう。

会場：武庫川女子大学 日下記念マルチメディア館 1階メディアホール

日韓学術交流企画 6月29日(日) 11:00~12:45

テーマ：地域福祉のデジタル化を考えるー韓国の社会保障情報システムの現状と課題ー

コロナ禍を契機に、相談援助の現場でも遠隔会議や記録の電子化、情報の保存・共有などにICTが活用され、デジタル化が急速に進んでいる。このようなデジタル化の動向は、今後さらに重要な役割を果たすことが見込まれている。一方、隣国韓国では、早い段階からデジタル政府の実現が目指され、国民の保健、医療、福祉などの情報が社会保障情報システムとして構築され、福祉行政や相談援助の現場で積極的に活用されている。これらの取り組みは、これまでの日韓学術交流企画を通じ、地域包括ケアや孤独死防止に関連する事例として間接的に紹介されてきた。

本企画では、韓国における社会保障情報システムをはじめとする福祉のデジタル化に関する制度政策、福祉現場での活用状況、さらにはその課題をも含めて体系的に理解し、デジタル化という社会変革にふさわしい地域福祉の在り方を検討する機会となることを期待する。

コーディネーター： 羅 珉京 氏（長野大学）

コメンテーター： 小松 理佐子 氏（日本福祉大学）

シンポジスト： ソン・ジヒョン 氏（新羅大学校）

イ・オンサン／パク・ソンウン 氏（慶南研究院）

※ 通訳： 崔 恩熙 氏（松山東雲女子大学）

会場：武庫川女子大学 日下記念マルチメディア館 1階メディアホール

エクスカーション・プログラム

(旅行契約には該当しません)

神戸コース

6月27日(金) 17:00~19:00

🔗 賀川豊彦の実践に学ぶ ～賀川記念館、コープこうべの働きを通して～

賀川豊彦と仲間たちの活動は、神戸に留まらず、関東大震災の救援を契機に日本全国に広がり発展してきました。

暮らしを支える地域福祉に始まり、協同組合運動、労働運動、平和運動など、弱い立場の人々や、痛みを持つ人々のためにその生涯を捧げた実践について、記念館の見学だけでなく、記念館館長であり、生活協同組合コープこうべ理事長でもある馬場一郎さんの講話で理解を深めます！

併せて、兵庫県内のコープこうべ流の地域福祉実践も紹介します。

- 場 所 賀川記念館（社会福祉法人イエス団）
- 定 員 20人（上限30人まで可）
- 参加費 1,000円 ※賀川記念館入館料、ケーキセットを含みます。
- その他 17時に賀川記念館1階に集合いただきます。

西宮コース

6月27日(金) 14:00~17:00

🔗 共生のまちづくりに向けた「つどい場」実践

地域共生館「ふれぼの」は、障害当事者を中核に、子どもから高齢者を含めた地域住民のつながりや役割づくりの活動を展開し、10年目を迎えます。

日々、様々な人たちが集ってくる中で生まれるエピソード、ごちゃまぜ空間から生み出されるつながりについて、当事者や地域住民、近くのお店など、様々な立場の方から実際の声を聴きます！

また、この先導的な挑戦から全市普及の取組状況についても紹介します。共生のあり方を一緒に探りませんか？

- 場 所 地域共生館「ふれぼの」（社会福祉法人西宮市社会福祉協議会）
- 定 員 30人
- 参加費 100円 ※飲み物代としていただきます。
- その他 14時に地域共生館「ふれぼの」1階に集合いただきます。

宝塚コース

6月27日(金) 14:00~17:00

🔗 市民がつくる！ボランティア・障害者就労・多世代交流の拠点づくり

阪神淡路大震災を契機に、ボランティア・市民活動や、市民同士と市民と障害者の社会参加を通じたコミュニティづくりの重要性を感じた市民の一人が活動拠点をつくりました。

そこでは、市民の手で運営する市民活動拠点やソーシャルファーム※、高齢者と子どもたち、障害者などの交流が生み出され、あらゆるボランティア活動を応援しています。そんな市民性あふれる宝塚福祉コミュニティプラザ（活動拠点）における宝塚流市民活動の実践をご紹介します！

- 場 所 宝塚福祉コミュニティプラザ（公益財団法人プラザ・コム）
- 定 員 30人
- 参加費 1,000円 ※焼き菓子セットとお土産のコーヒーセットを含みます。
- その他 14時に宝塚福祉コミュニティプラザ1階に集合いただきます。

3 自由研究発表の申し込み

1. 申込方法

大会専用ホームページより手続きをしていただきます。なお、「自由研究発表原稿様式」（添付様式1）及び「エントリーチェックリスト」（添付様式2）をあらかじめダウンロードし、申し込み時に必ず添付してください。

2. 申込締切

2025年4月14日（月）24時まで

※申し込みには、演題と要旨の登録が必要になります。原稿は以下に説明する「自由研究発表原稿様式」に基づき作成してください。必ず所定の書式に従って提出してください。

「自由研究発表原稿様式」

1 発表につき A4縦1枚（横書き）

余白：上下 25 mm 左右 20 mm

文字数：1 ページ 40 字×40 字

フォント：主題 12 ポイント MSゴシック・中央揃

副題 10.5 ポイント MSゴシック・中央揃

氏名（団体名）：10.5 ポイント MS 明朝

所属・会員番号（発表責任者氏名・会員番号）：9 ポイント MS明朝

見出し：11 ポイント MSゴシック

本文：10.5 ポイント MS明朝（だ・である調で記入）

3. 記述内容

原稿は、①研究目的、②研究の方法、③倫理的配慮、④結果・考察という基本的な枠組みを示して執筆してください。なお、結果・考察について「当日資料共有」という未完成原稿は認められません。

4. 発表資格

日本地域福祉学会員（団体会員を含む）であることが条件です。なお、以下についてのルールが守れないと発表資格が無いと判断されることがありますのでご注意ください。

- 発表者は、日本地域福祉学会理事会において会員として承認されており、2024 年度分までの会費が納入されていること。なお、現在会員でない場合は、2025 年3月の同理事会での承認が必要となるため、3月21日（金）までに入会申込を行い、入会が認められた場合、4月末までに入会金、会費を支払うこと。
- 発表の要旨に、必ず会員番号が記入されていること。共同研究報告で1名でも会員番号の記載が無ければ発表要旨の受理が出来ません。なお、入会申請中の場合は、「入会申請中」と記入してください。入会が認められ次第、会員番号をお知らせしますので、後日会員番号の記入をお願いします。

5. 発表件数

- 筆頭発表者（ファースト・オーサー）は1 演題に限ります。また、団体会員の発表は1 団体につき1 演題とします。
- 1 グループ（1 団体）の連続発表は2 つまでとします。
- 演題の申し込みは必ず筆頭発表者（団体会員の場合は、発表責任者）が行ってください。演題の申込者と筆頭発表者が異なる場合は受理できません。
- 筆頭発表者は、発表とは別に他の研究発表等で共同研究者として名前を連ねることは可能です。

6. 要旨確認

倫理的配慮の観点から、原稿の修正等を求めることがあります。修正を求められた場合には、修正コメントに基づいて指定した期日までに再提出をしてください。再提出がされない場合には、発表することができません。

7. 分科会

希望する分科会を下記リストの中からお選びください（第1希望から第3希望まで）。団体会員も、個人会員と同じ分科会で行いますので、同様に希望する分科会を選んでください。

各分科会の人数の調整や発表するテーマと分科会の関連などから、希望する分科会での発表ができないことがありますのであらかじめご了承ください。

<分科会リスト>

第1分科会 理論・歴史	地域福祉に関する理論・歴史
第2分科会 政策・制度	地域福祉に関する政策、諸制度、包括的支援体制等
第3分科会 推進主体・提供組織	行政、社協、ボランティア・NPO、住民組織、民生委員・児童委員、共同募金等
第4分科会 対象・対象者	高齢者、障害者、児童、生活困窮者、外国人、LGBTQ等
第5分科会 地域福祉（活動）計画、運営管理	地域福祉計画、地域福祉活動計画、運営管理、評価等
第6分科会 地域福祉の諸活動・権利擁護	小地域福祉活動、見守り活動、サロン・居場所づくり活動、権利擁護、当事者組織化等
第7分科会 地域福祉の方法	コミュニティワーク、コミュニティオーガナイズ、コミュニティソーシャルワーク、ファンドレイジング等
第8分科会 福祉教育・福祉文化	サービスラーニング、ボランティア学習、世代間交流、多文化共生等
第9分科会 社会福祉施設・社会福祉法人	社会福祉施設、社会福祉法人による地域における公益的な取組等
第10分科会 災害と地域福祉	災害時要配慮者支援、福祉避難所支援、災害ボランティア支援、BCP、コロナ禍への対応等

4 自由研究発表の方法

(1) 口頭発表

① 発表時間

1 発表につき 25 分（発表 15 分、質疑 10 分）となります。

② 発表方法

口頭での発表となります。パワーポイント等の映写目的のプロジェクターの使用が可能です。

③ 配布資料

- ・ 今大会では、各自当日資料を印刷して持参し配布していただきます。
- ・ 当日資料は、分科会発表者資料を各自で 50 部印刷してください。
- ・ 当日配布資料の内容については、日本地域福祉学会倫理規程に基づき、研究対象とした個人の特定ができないようにしてください。写真についても発表内容を伝えるために本当に必要なものであるかを判断し、使用する場合は本人の了解をとり、その旨を明示するようにしてください。倫理的に問題があると判断された場合、コメンテーターが当日の発表を中止する場合があります。なお、万が一の倫理的な問題によるトラブルが生じた場合、発表者の責任となり、学会はその責を負えません。

（日本地域福祉学会研究倫理規程アドレス：http://jracd.jp/file/9_rinri_kitei.pdf）

- ・ 資料として動画は使用できません。
- ・ 当日資料等の取り扱いについては、後日、大会ホームページにて詳細をご説明いたしますので、各自ご確認をお願いいたします。

(2) ポスター発表

- ① 希望者は、「自由研究発表申込書」の「ポスター発表」欄にチェックしてください。
- ② 大会ホームページに掲載するため、ポスター発表者も「自由研究発表レジュメ」（様式参照）が必要となります。所定の期日までに大会ホームページから申請してください。
- ③ ポスター本体は、6 月 29 日（日）8 時 30 分までにポスター発表会場に持参してください。

6 学会ランチサロン

目的：お昼の時間を活用し、夜の情報交換会に参加しにくい人を含め、大会参加者が相互に知り合い、気軽に情報交換や意見交換ができる場を作る

対象：次のようなことを感じている人なら、非学会員も含め、参加申込者誰でも歓迎です。
夜の情報交換会には参加できない、学会に参加して話を聞くだけでなく感想等を話したいなど方など、是非ご参加ください。

日時：2025 年6月 28 日（土） 12:00～13:00

（大会1日目の午前のプログラム終了後、午後のプログラム前まで）

場所：武庫川女子大学 図書館2階 グローバルスタジオ

内容：昼食をとりながらのグループ別懇談と自由交流を行います。
できるだけ名刺をご持参ください。

昼食：各自ご持参をお願いします。 定員：当日先着 30 名
（スペースに余裕があるようでしたら若干の追加参加可）



開催校特別企画

◆スペシャル・トークライブ

日時：2025 年6月 29 日（日） 12:45～13:55

大会2日目昼食時に学会名誉会員によるトークライブを開催します。

本学会の設立当初より、地域福祉実践にもコミットしながら活発な研究活動を行い、学会長等の役職も歴任され、学会活動を牽引されてきた名誉会員である大橋謙策氏と上野谷加代子氏によるトークライブを行います。

昼食の時間帯にはなりますが、飲食もできますので、是非ともご参加ください。

テーマ：「次世代を担う地域福祉研究者、実践家に何を学び、何を継承して欲しいのか」

進行・聞き手：**上野谷 加代子 名誉会員** × 発題者 **大橋 謙策 名誉会員**

企画担当：松端 克文（大会実行委員長 武庫川女子大学）
堀 善昭（大会事務局長 武庫川女子大学）

会場：武庫川女子大学 日下記念マルチメディア館 5階 506 教室

7 大会参加の申し込み

1. 申込方法

大会専用ホームページからお申し込みください。

申込受付完了後、確認メールが送られます。1週間経ってもメールが届かない場合は、名鉄観光サービス株式会社神戸支店にお問い合わせください。

なお、団体会員の場合も、参加申し込みは個人単位で行ってください。

2. 申込期間

申込締め切り **2025年5月22日（木） 24時まで**

入金締め切り **2025年6月10日（火） 締切**

3. 参加費（要旨集込）

会員事前申込み（団体会員を含む）：8,000 円 会員当日申込み・非会員：10,000 円

大学院生：4,000 円 学部学生：1,000 円 *要旨集のみ：2,000 円

※申込み後の返金には一切応じられませんので、あらかじめご了承ください。

4. 情報交換会

- ・会場：公江記念館 E N S E M B L slow

- ・情報交換会参加費：7,000 円

- ・1日目の18時より情報交換会の開催を予定しています。参加を希望される方は併せてお申し込みください。

- ・感染対策を行ったうえで実施しますが、状況によっては中止となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

5. お弁当（込み後の返金には応じられませんので、あらかじめご了承ください。）

- ・内容等 お弁当（お茶付）1,200 円税込（予定）

- ・設定日等 ①6月28日（土）1,200 円税込（予定）

- ②6月29日（日）1,200 円税込（予定）

大会実行委員会の指定する場所でお召し上がりください。

6. 情報保障

手話通訳の配置や、聴覚障害者向け音声文字変換ソフトを活用し情報保障に配慮します。（分科会については、個別に相談に応じます。）

7. 託児

両日の会場ともに託児のご用意があります。（利用料は利用者の負担になります。）

- ・設定日等 ①6月28日・29日 武庫川女子大学中央キャンパス内

- ・その他 事前申し込み制です。ご希望の方は大会参加とあわせお申し込みください。

8 問い合わせ先

【自由研究発表及び大会運営に関すること】

兵庫大会実行委員会事務局(武庫川女子大学)

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6 番 46 号

MAIL : jracd2025inhyougo@gmail.com

【大会参加申込み等に関すること】

名鉄観光サービス株式会社神戸支店 (担当：西村・二宮・磯野)

営業時間 10:00～17:00（平日のみ 土日祝日休み）

〒650-0032 兵庫県神戸市中央区伊藤町 121 神戸伊藤町ビル 2 階

TEL : 078-321-5005 FAX : 078-321-5019

MAIL : chiikifukushihyogo@mwt.co.jp

9 会場アクセス

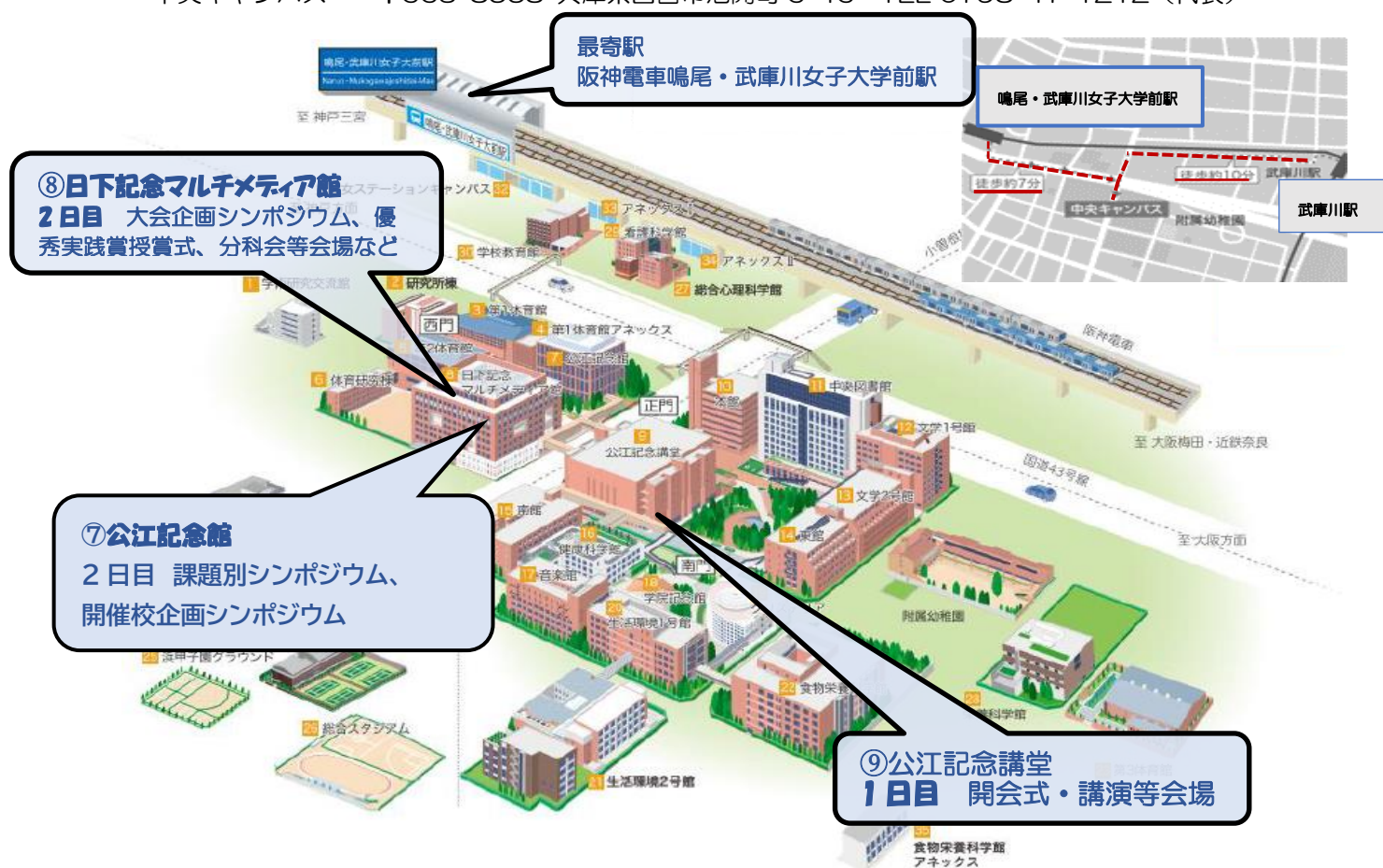
武庫川女子大学キャンパス

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 TEL 0798-47-1212（代表）

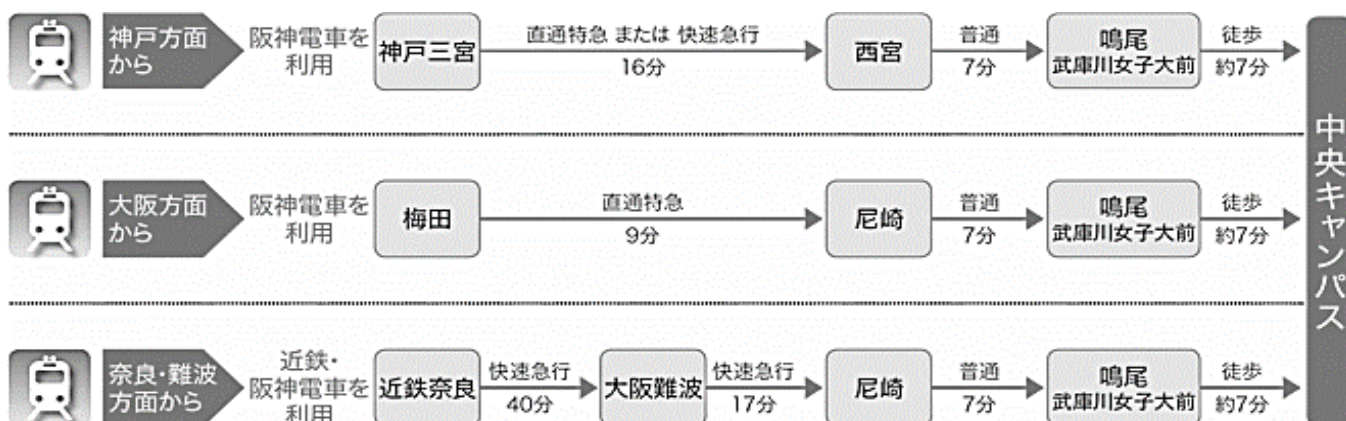
最寄り駅から

- ・ 阪神電車 「鳴尾・武庫川女子大学前」駅 下車 徒歩 7 分
- ・ 阪神電車 「武庫川」駅 徒歩 10 分
- ・ 公共の交通機関を利用してご来場ください。ただし、配慮が必要な方で車を使用する場合は事前にご相談ください。
- ・ 武庫川女子大学アクセス・キャンパス（講堂・マルチメディア館）

中央キャンパス 〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 TEL 0798-47-1212（代表）



主要駅（鳴尾・武庫川女子大学前）まで



【添付様式1】 自由研究発表原稿様式(A4サイズ)

25mm		
20mm	(※ 1行空白) 主題：12pt MSゴシック・中央揃 － 副題：10.5pt MSゴシック・中央揃 － 氏名 10.5pt MS明朝（所属・会員番号 9pt MS明朝） ＊共同研究の場合は、筆頭報告者の氏名に○印をつける。 【※団体会員の場合】 団体名 10.5pt MS明朝（発表責任者氏名・会員番号 9pt MS明朝）	20mm
1. 研究目的（見出し 11pt MSゴシック、本文 10.5pt MS明朝） 2. 研究の方法（見出し 11pt MSゴシック、本文 10.5pt MS明朝） 3. 倫理的配慮（見出し 11pt MSゴシック、本文 10.5pt MS明朝） 4. 結果・考察（見出し 11pt MSゴシック、本文 10.5pt MS明朝）		
25mm		

【添付様式2】 日本地域福祉学会自由研究発表エントリーチェックリスト

会員番号		氏名 (団体会員の場合は団体名)	
------	--	---------------------	--

以下の内容に間違いがないことを確認した上で、研究倫理に配慮した報告を行います。

No.	チェック項目	チェック欄
1	発表要旨が指定の書式（文字の大きさ・字体・余白等）で作成されている。	
2	研究の目的・方法・倫理的配慮・結果・考察が記載されている。	
3	共同研究の場合、筆頭報告者に○印がついている。※団体会員は非該当	
4	共同研究の場合、全員が学会員である（入会申請済でも可）※団体会員は非該当	
5	当事者あるいは責任ある立場の者から研究協力の同意を得ている。	
6	当事者あるいは責任ある立場の者から学会報告の承諾を得ている。	
7	文献や資料を引用している場合、出典が明記されている。	
8	差別的表現や社会的に不適切な用語が使用されていない。	
9	発表内容は他の学術学会での発表と多重報告ではない。	
10	当日配付予定の資料や掲示物等においても研究倫理に配慮する（発表時に再確認する）。	
11	倫理的配慮の内容を発表要旨に記載しきれない場合、以下に記載してください。	
12	その他、発表に関して特記事項がある場合、以下に記載してください。	

日本地域福祉学会第 39 回全国大会(兵庫大会)実行委員会

大会実行委員会

No	氏名	所属	担当
1	倉石 哲也	武庫川女子大学	大会長
2	松端 克文	武庫川女子大学	大会実行委員長
3	堀 善昭	武庫川女子大学	大会事務局長 ・ 会計担当
4	半羽利美佳	武庫川女子大学	大会事務局次長 ・ 会計担当
5	大同 由佳	武庫川女子大学	大会企画運営
6	清水 由香	武庫川女子大学	大会企画運営
7	與那嶺 司	武庫川女子大学	大会企画運営 (HP,受付等含む)
8	増田 和高	武庫川女子大学	大会企画運営 (HP,受付等含む)
9	浅井 鈴子	武庫川女子大学	大会企画運営 (HP,受付等含む)
10	吉富志津代	武庫川女子大学	大会企画運営
11	野上 恵美	武庫川女子大学	大会企画運営
12	内田 和宏	武庫川女子大学	大会企画運営
13	藤井 博志	関西学院大学	大会企画
14	小林 茂	兵庫大学	大会企画
15	柴田 学	関西学院大学	大会企画
16	竹端 寛	兵庫県立大学	大会企画
17	藤原 慶二	関西福祉科学大学	大会企画
18	渡辺 晴子	神戸女子大学	大会企画
19	馬場 正一	兵庫県社会福祉協議会	大会企画 ・ 地域関係者調整 ・ 広報
20	音川 礼子	西宮市社会福祉協議会	大会企画 ・ 地域関係者調整 ・ 広報
21	福宜田竜樹	神戸市社会福祉協議会	大会運営
22	山崎 元輝	芦屋市社会福祉協議会	大会運営
23	上杉 泰章	尼崎市社会福祉協議会	大会運営
24	白井 佳之	伊丹市社会福祉協議会	大会運営
25	高田 浩行	川西市社会福祉協議会	大会運営
26	山口 隆司	三田市社会福祉協議会	大会運営
27	山本 信也	宝塚市社会福祉協議会	大会運営
28	別宮 新吾	猪名川町社会福祉協議会	大会運営
29	岡崎 貴志	日本地域福祉学会事務局参与	大会事務局補佐 ・ 渉外ほか担当

日本地域福祉学会第 39 回全国大会(兵庫大会)
拡大実行委員会<近畿地域福祉学会役員>

No	氏名	所属	担当
1	藤井 博志 (代表幹事)	関西学院大学	実行委員会
2	酒井久美子 (滋賀)	京都ノートルダム女子大学	大会運営
3	谷口 郁美 (滋賀)	滋賀県社会福祉協議会	大会運営
4	野村 裕美 (京都)	同志社大学	大会運営
5	武田 知記 (京都)	京都府社会福祉協議会	大会運営
6	石川久仁子 (大阪)	大阪人間科学大学	大会運営
7	難波 志保 (大阪)	大阪府社会福祉協議会	大会運営
8	小林 茂 (兵庫)	兵庫大学	実行委員会
9	杉田 健治 (兵庫)	兵庫県社会福祉協議会	大会運営
10	岡野 聡子 (奈良)	奈良学園大学	大会運営
11	浅井 智子 (奈良)	奈良県社会福祉協議会	大会運営
12	上野山裕士 (和歌山)	摂南大学	大会運営
13	榎本 幸治 (和歌山)	和歌山県社会福祉協議会	大会運営
14	永田 潤平 (政令市京都)	京都市社会福祉協議会	大会運営
15	堀江 幸代 (政令市大阪)	大阪市社会福祉協議会	大会運営
16	所 正文 (政令市堺)	堺市社会福祉協議会	大会運営
17	本田 幹雄 (政令市神戸)	神戸市社会福祉協議会	大会運営
18	猪俣 健一 (推薦)	阪南市社会福祉協議会	大会運営